

科目名	商法総則・商行為法	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			法律学科	□ 必修	■ 選択
			学科	□ 必修	□ 選択
英文表記	General Provisions of Commercial Code/ Law of Commercial Transactions	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年		
		開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	おうもと まさき	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	應本 昌樹	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	商法は、企業の組織や活動に関し、その関係者の利害を調整することを目的とする私法の特別法である。このうち、会社法が企業の組織を対象とするのに対し、商法総則・商行為法は商取引などの企業の活動を主な対象とする。本科目では、商取引の仕組みとこれに対する商法の規律について学ぶ。				
到達目標	主な商取引について、その特徴を理解している。 商人・商行為などの基本概念や、商業登記・商号・商業使用人などの企業活動を支える仕組み、商事売買、仲介営業、運送営業、倉庫営業などの商取引に関する規律の概要について、説明することができる。				
授業概要	各回のテーマについて、テキストに沿って解説する。 主に講義形式によるが、適宜、受講者に対し、発問して、応答を求める。 小テストやグループワークなどを行うことがある。 諸事情を考慮して、内容や進め方などを変更することがある。				
授業計画					
第1回	ガイダンス、商法とは				
第2回	商法の基本概念				
第3回	商業登記、商号（1）：商号の意義～商号単一の原則				
第4回	商号（2）：名板貸～会社法における商号				
第5回	商業帳簿、商業使用人、代理商				
第6回	営業				
第7回	商行為法総則				
第8回	商事売買・消費者売買				
第9回	交互計算、匿名組合				
第10回	仲介営業				
第11回	運送営業（1）：物品運送				
第12回	運送営業（2）：旅客運送				
第13回	運送取扱営業、寄託				
第14回	倉庫営業				
第15回	まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	予習：あらかじめテキストをよく読み、問題意識をもって授業に臨む(1.5 時間程度)。 復習：テキストやレジュメ、授業中にとったノートを読み返し、知識の整理と定着を図る(1.5 時間程度)。 なお、疑問点は、授業中に質問するほか、友人間で討論したり、図書館などで調べたり、オフィスアワーに教員に質問したりして、その解消に努めること。				
履修条件 受講のルール	民法総則の単位を修得済みであること。債権各論を履修することが望ましい。 テキスト、六法およびレジュメなどの配布資料を必ず持参すること。 座席は指定制とする。私語を慎み、授業に集中すること。許可なく携帯端末などの操作をしないこと。				
テキスト	近藤光男『商法総則・商行為法〔第9版〕』（有斐閣）				

参考文献・資料	<p>江頭憲治郎『商取引法〔第9版〕』（弘文堂）、弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法〔第3版〕』（有斐閣）、北村雅史編『商法総則・商行為法〔第2版〕』（法律文化社）、神作裕之ほか編『商法判例百選』（有斐閣）。そのほか、随時、参考文献を紹介する。</p> <p>レジュメなどの資料をポータルサイトに掲載するので、速やかに各自でダウンロードすること。</p> <p>授業当日に資料を配布することがあるが、欠席した学生には配布しないので、友人同士でコピーすること。</p>
成績評価の方法	<p>受講態度（小テスト、レポートなどを含む）を20%、定期試験を80%とする。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	火曜日13:00～14:30・木曜日13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	<p>弁護士として、企業の法律顧問や商事訴訟の代理などにあたりました。</p> <p>企業法務の実際にも触れながら、わかりやすく解説していきます。</p>
学生へのメッセージ	<p>ビジネスを行うには、商法の基礎知識が役に立ちます。また、商法は、司法試験の必須科目です。</p> <p>特に、企業への就職や法科大学院への進学を目指す人は、ぜひ受講してください。</p>